

## 郷

土屋禮一さん 日本芸術院会員に就任

### 土のほまれ、頂は高く

養老町出身の日本画家土屋禮一さんが、昨年12月15日付で日本芸術院会員に就任されました。日本芸術院とは、文化庁の特別機関で芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための荣誉機関です。芸術の発達に寄与する活動を行うとともに、芸術に関する重要事項を審議し、これを文部科学大臣や文化庁長官に意見することができるとされています。岐阜県出身の日本画家としては、土屋さんが、4人目の荣誉となります。

1月30日（土）土屋さんが来町され、町中央公民館で就任を祝う会が行われました。

会では稲葉町長や村下県議会議員、伊藤恭子町美術協会会長など約30人が、土屋さんの会員就任を祝いました。稲葉町長は「芸術院会員就任おめでとうございます。町民の皆さんと一緒に、心からお祝いいたします。町美術展を毎年開いていますが、その頂点は高い所にあると誇りに思います。」とお祝いの言葉をかけました。これらの言葉に土屋さんは「名誉ある会員に選んでいただき身の引き締まる思いです。これも、加藤東一先生に『君も岐阜出身か』と声をかけてもらったことが始まりです。養老の人の気持ちに後押ししてもらって、会員になれたのだと思います。」とお礼の言葉を述べられました。

なお、4月8日には土屋さんの会員就任祝賀会が行われる予定です。



▲芸術院会員に就任された土屋さん

## 声

養老町民なわとび大会

### を合わせてみんなでジャンプ



▲息のあったジャンプをする子どもたち

全員でミナモダンスを覚えました。

なお、大会の結果は次のとおりです。

【長なわとび】《優勝》多芸西部A《準優勝》上多度複合《3位》養老キッカーズ

【ジュニア長なわとび】《優勝》多芸東部ジャンパーズJ（金屋）《準優勝》日吉子ども会S《3位》広幡がんばろう

【ひょうたんとび】《優勝》上多度複合《準優勝》日吉子ども会A《3位》養老キッカーズ

第28回養老町民なわとび大会（同実行委員会主催）が2月7日（日）、町総合体育館で行われ、小・中学生やその保護者など約350人が参加しました。

今年の大会から小さい子も長なわとびができるよう、ジュニアの部が設けられました。縄を回す人の「せーの」のかけ声で跳びはじめ、「1・2・3…」とリズムのあった声が体育館に響いていました。

またアトラクションとして、ぎふ清流国体のマスコットミナモを招き、『ミナモといっしょに長なわとびをしよう』と『ミナモダンス』が行われました。ミナモダンスでは、はじめにダンスの振り付けを知っている子がミナモと一緒に踊りました。その後、参加者

## 税

租税教室

### 金について学んだよ

1月に町内の学校で租税教室が開かれ、子ども達が税について学びました。養老小学校では1月28日（木）に6年生を対象に行われ、町税務課職員の武藤将平さんが講師をつとめました。

教室は簡単な税に関するクイズから始まりました。「税金を払っている小学生はいるでしょうか？」などの問題が出され、児童はわかる質問には積極的に手を上げていました。また、『税金がなくなったらどうなるか』をテーマにしたビデオを見た児童らは、身近で当たり前のように受けられるサービスが税金でまかなわれていることを学び、税金の大切さについて考えるよい時間となりました。

